

四才児三学期の記録

①

子 子 真
景 文
部 合 守
磯 堀 津

4才児の三学期より、私どもは、お茶の水女子大学付属幼稚園の
一クラスの記録をはじめた。幼稚園で実際にどのようなことが行な
われているかを、具体的にありのままに記録にとどめ、どのような
順序を経て、子どもが力いっぱい活動し、その能力を展開するか
を明かにしたいと思ったのである。幼稚園で、子どもがどのように
活動し、教師はどのように指導してゆくかをみていただければ幸で
ある。なお、記録について、また、その内容について、多くの方々
の御批判と御教示をお願いする次第である。

毎日の記録は、非常にぼうだいな量になるので、多くの部分を割
愛せねばならなかった。できるだけなまの記録の形をとどめるよう
にしたかったのであるが、雑誌の限られた紙数に発表するために
は、要約せざるをえなくなりました。

四才の三学期の主要な部分は、「おもちゃや」のためのおもちゃ
づくりを中心とする経験である。教師としても、一月のはじめか
ら、その計画を頭において、「おもちゃや」が進行する。途中で諸
行事のために、何度か中断するが、「おもちゃや」は二月末までつ
づき、二月二十六日は、隣のフランスの子どもたちを招いて、「お
もちゃや」は終結になる。この間のだいたい経過を、まず示して
おくと、次に掲げる表の通りである。以下、日を追って、記録をみ
ていただくことによって、この内容が明かになるであろう。

一月十日 金曜日 〳一月十一日 土曜日

おもちゃをつくりはじめ

棚の上に十二月に子ども達が作ったクリスマススの飾りやおもちゃが、藁筒にさしてある。Kが「ちょうちんを作る」といつてつくりはじめたところ、クラス中のほとんどの子どもがちょうちんをつくりだす。次々と二つも三つも作る子どももいる。先生は「ちょうちんにもいろいろなちょうちんがあるわね」といつていろいろな形のちょうちんを作るように子どもたちに話しかける。先生もいっしょにつくる。花のちょうちんや魚のちょうちんなどができてくる。

一月十三日 月曜日

自動車と乳母車ができる

先生は子どものいすに腰かけて、机の上でひごを切っている。先生のまわりで何人かの子どもが自動車や乳母車をつくっている。男児はみな自動車を作っているし、女児はみな乳母車を作っている。ひとり自動車を作りはじめるとそれを見てだれもが自動車を作ってきた。先生は「自動車でも飛行機でも何を作ってもいいのよ」といろいろなおもちゃを作るようにはたらきかける。自動車は空箱をマジックインクでぬり、牛乳のふたで車をつくる。車も色をぬる。車軸はひごで作り、車をおして、消しごむや破れたボールを小さく

切つて車をとめる。車軸はセロテープでとめる。乳母車は空箱に色をぬり、色がみを山形にたくさん折目をつけてほろにする。厚紙で押すところをつくり、車は自動車と同じである。庭に面した机では女児が三人でかるたとりをしている。読み札を持っている子どもが「い」というと他のふたりが「い」、「い」といつて絵札をさがす。読み札に文章がかいてあるが、それは読まない。かるたとりをしている子どもたちのそばで、男児と女児がふたりで紙飛行機を飛ばしている。保育室のまん中の机では女児がふたりで絵をかいている。廊下では四人の子どもが鬼ごっこをしている。庭ではリレーがはじまる。

A 「バトンあるか」

T 「手でたたくのでもいいよ」

H 「そうだ」

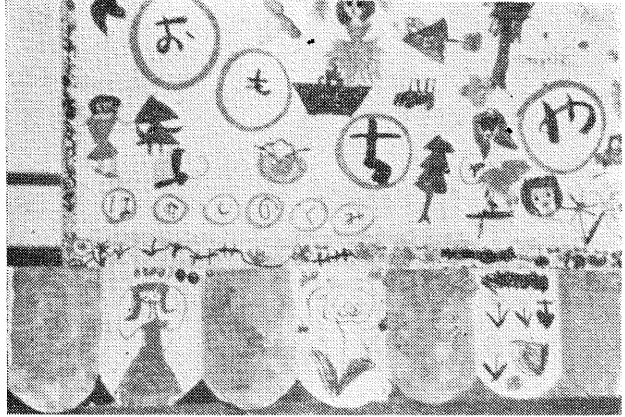
M 「スキップがいいよ」

結局スキップのリレーがはじまる。

一月十四日 火曜日

「はやしのくみ、リズム」と子どもたちがふしをつけてうたう。あつという間に子ども達があちこちから集ってくる。先生に「お手洗に行きたい人は行っていらっしやい」といわれ、半数以上の子ども達がかけ出して行く。みんなが帰つて来るのを待つて遊戯教室に行く。先生のピアノに合わせて、スキー、雪だるまつくり、雪うさぎつくり、雪合戦、スケート、羽根つき、たこあげ、まりつき、こまわしをする。ひとりずつ、スキップで遊戯室を一周して、保

おもちゃやさんのカンパン



育室に帰る。

一月十八日 土曜日

自動車、乳母車、飛行機、船、かばんができる。

「ままごとコーナーで女児五人と男児ではHひとり加わってままごとをしている。」

先生「あら、男の方はどこへ、いったのかしら」

H「ここにいますよ」

とHがままごとコーナーでいう。

先生「あらそうでした。ほかのかたたちは」

H「あのね。ゆうぎ室でゴルフ」

先生「ああ、そうなの。ゴルフなの」と笑う。

先生は、次々に登園する子ども達に「おはようございます」といって、子どもたちとはなしをしながら、机の上に紙をひろげ、マジックインクをおく。それからままごとコーナーの子ども達のところへおはじきを持っていく。子ども達は先生のまわりに集っていっしょにおはじきのひもをほどこいたりみたりしている。こんどは手洗場の近くの机の上に紙をひろげて、のりをお皿に出す。それから、室内の遊具を庭につづく戸口に持っていく。子どもたちが先生のそばに行つて何かいっている。保育室の入口に空箱をたくさん先生は子ども達とはなしながらいろいろと準備をする。それから遊戯室に行く。ゴルフをしている子ども達はバットをめぐらめつぽうに打っている。

「て」

先生「ここに入れるようにしたらいいわ。あっちこっちじゃなく」といながら箱つみ木で的をつくる。Iが先生のつくつた的に向かつて玉を打つ。

先生「ああ、おいしい」

とみている。遊戯室をでて、保育室に向かう。「せんせいおにごっこしよう」ときそわれて、子どもたちと鬼ごっこをする。しばらく

おもちゃの経過

月日	曜日	単元に直接関係のある活動	行事	単元に直接関係のない活動
1月10日	金	ちょうちん		
11日	土	ちょうちん		
12日	日			
13日	月			紙で飛行場づくり 紙ひこうき プラモデルで高速道路リレー かるたとり えをかき 絵をかき おにごっこ
14日	火	うばぐるま	リズムあそび(スキースター) (おもちゃ)	
15日	水	うばぐるま		
16日	木		実習日	あやとり おにごっこ
17日	金	うばぐるま 自動車 花ばたけ		大積み木で自動車のつくり おにごっこ かるたとり
18日	土	うばぐるま 自動車 ひこうき		ブロック積木と小積木で道路づくり おにごっこ おはじき かるた えあわせ ゴルフ ままごと
19日	日			
20日	月	びっくり箱	おみせや ふくびきや	高速道路 ままごと リレー かるた えあわせ
21日	火	びっくり箱	リズムあそび	おみせのおうちごっこ 大積み木と小積木と紙のつくり ゴルフ プラモデル リレー ひこうき あやとり りんごのつくり ままごと えをかき
22日	水	びっくり箱	テレビ	ギャングごっこ つみ木 えをかき ままごと
23日	木		実習日	
24日	金	ひこうき かんむり ちょうちん	おもちゃやさんの看板をかき	紙ひこうき あやとり ままごと えをかき
25日	土	ブランコ	たんじょう会	小積木とブロック積木を組み合わせて ままごと
26日	日			
27日	月	ブランコ ひこうき ままごとセット		おみせのおうちごっこ ままごと えをかき つみ木
28日	火	ブランコ えほん おめん	本屋ごっこ	おみせのおうちごっこ 小積み木で人ごっこ あやとり 軍隊ごっこ
29日	水	ブランコ えほん せんすいかん	テレビ	おみせのおうちごっこ つみ木 えをかき カルタ
30日	木	ふくびきカードづくり	ふくびきや	実習日
31日	金	ふくびきのカードづくり えほん えあわせ うでわ びくびき	ふくびきやふくびきやの看板をかき	紙ひこうき リレー ブロック積木 かるた ままごと あやとり
月日	曜日	単元に直接関係のある活動	行事	単元に直接関係のない活動
2月1日	土		母の会室内でリズムあそび	リレー つみ木 えをかき ままごと
2日	日			
3日	月			
4日	火		ふくびきごっこ	前分のお餅づくり
5日	水	船 バイク ロボット たい橋 シニワ		前分のお餅づくり 前分のお餅づくり つみ木 プランコ あやとり おおかみケンごっこ
6日	木	びんで人形をつくる		つみ木で高速道路づくり かくれんぼ おおかみケンごっこ ままごと 絵をかき 紙ひこうき
7日	金	ままごとセット えあわせ くびみどり うでわ 人形	おもちゃやさんごっこ	実習日
8日	土	ひこうき ロボット 絵あわせ	おもちゃやさんごっこ	大積み木で航空母艦 ブロック積木とくみ木で飛行機をつくる 人形あそび
9日	日	洋服だんす		大積み木で飛行場づくり (日本の飛行場とイギリスの飛行場に別れる)
10日	月			
11日	火		おもちゃや おしほい 看板をつくり 品物が けしきする おしほい 看板を飾り	リズムあそび(おもちゃ) 大積み木で飛行場づくり
12日	水	かばん バッグ カメラ えあわせ 車札		大積み木で飛行場づくり あやとり
13日	木		おもちゃやさんごっこ(ままごとあそび)つくる	実習日
14日	金		たんじょう会のかごづくり	あやとり
15日	土		たんじょう会	大積み木で飛行場づくり
16日	日			
17日	月			
18日	火	休園		
19日	水			
20日	木			
21日	金		実習日	飛行場づくり えをかき ボールあそび
22日	土		実習日	飛行機 高速道路 えをかき かごめかごめ ままごと
23日	日			
24日	月	大きき看板をつくる 唐ののれんをつくる 招待状をかき(共同作業)	たこやきやさんごっこ 本屋ごっこ	大積み木 小積み木 ままごと 本よみ
25日	火	おもちゃの修理 おもちゃを陳列する		雪合戦
26日	水	おもちゃの開店 おもちゃの修理 おもちゃを陳列し 車札をつける	おもちゃの開店をしらせる 全日うりやきになる	テレビ えをかき まりつき 戦争ごっこ

鬼ごっこをしていたが、

先生「ねえ、せんせいちよつとやめてもいい？ またいれてね」

と行って保育室に入り、マジックを置いた机の上に画用紙、ひご、はきみ、きり、色紙などを用意する。Jは昨日つくりかけていた船のつづきを作っている。

一月二十日 月曜日

びっくり箱ができる

先生のまわりでは子どもが四人、びっくり箱をつくっている。遠くはなれて何人かの子どもがやはりびっくり箱をつくっている。空箱を絵の具でぬっている子どももいるし、マジックでぬっている子どももいる。空箱は大きいのもあれば小さいのもある。Nは箱をマジックでぬっている。びっくり箱はふたつきの箱に色をぬり、はりがねをまげてばねをつくり、ばねの先に自分の好きなものをつくってセロテープでとめる。棚に子ども達がつくった、ねずみ、ちよちよ、人形などのびっくり箱がかざってある。

N「できた」

と先生のところに持ってくる。

先生「それじゃ、ほんととびだすものをかいていらっしやい」

とJのはりがねを切りながらいう。先生は先生のまわりに座ってびっくり箱をつくっている子ども達が次々にできたといっているのに応じている。Mははりがねを曲げてばねをつくったといい、Sはばねの先にねずみをつけて、できたといい、先生にばね箱に入れて

もらう。

N「せんせいできたよ。」

とひとつ目小僧をきってくる。

先生「あら、こわい。じゃまわりを切っていらっしやい」

さっきまで積木をしていたSたちが、Nのまわりに来て、Nが切っているのをみている。

S「なにしているの」



かざぐるま

12月につくったのを葉筒にさしてある

びっくりばこをつくる



N 「びっくりばこをつくっているの」

S 「わあ、おばけ」

N 「せんせい、なにをかいてもいいよ」

とはいったが不安になったのか先生のところに行きまことにこしてすぐ帰ってくる。

N 「何でもいいんだって」

S 「せんせいなをつくってもいい?」

先生 「ええ、いいですよ」

S 「わあ、つくろう」

と箱をさがしに行く。Nは切りおわり、ひとつ目こぞうを手にもって、先生のところに行く。

N 「どうするの」

先生ははりがねを切って

先生 「へびみたいにこういうふうにまろくしていくの」

と手でまねをして、はりがねをわたす。Hが持ってきた箱をみて、「きれいにぬれたわね」という。箱の一面しかぬってないのに気づき、他の面も「こういうふうにぬるといいわね」といって箱をわたす。Nははりがねをまるめてはりがねの先にセロテープでひとつ目小僧をつけて持ってくる。先生は「こわいわね」といいながらはりがねのばねを箱の中に入れてあげる。Nは得意そうにとび出すかどうか、ためしてみる。先生は絵の具でぬった子どもに「えのぐがかわく間に中味をつくるといいわ」といっている。Iが、「せんせいなかをみないでね。ひみつ」と棚におく、先生は「なにがとびだすでしょう」と笑う。

Hは箱つみ木を二つ、三十センチ位、間をあけてたてる。長方形のブロックを長くつないで箱つみ木から箱つみ木へわたし、さらにブロックをつなぎ腰かけの背にもたせ、さらに机の上へとつないで高速道路をつくる。ままごとコーナーでは男児六人、女児二人が、おすしを囲んで忍者のはなしをしている。間もなく箱つみ木を運

び、囲いをつくって囲いの中に板を敷きつめる。かごに入れてある遊具をかごに入れたまま運んでくる。本も運んでくる。Tは自分のひき出しから、紙でつくった財布を持ってくる。

T「もりのくみ(3才)からはやしのくみ(4才)にくるとき、
だいいじなものとはとっておきなさいってせんせいがいったよ」

H「そうだよ」

Tは大事そうに財布をポケットに入れる。T、Y、Hが「いらっしやい。いらっしやい」と大声でよびかけるが、だれもこない。ちょうどその時、Kが庭から入ってきて加わる。Kは先生から画用紙をもらってきて絵をかいているうちに画用紙は福引券になっており絵をかいては小さく折る。

一月二十一日 火曜日

四人でひとつの大きいびっくり箱をつくる

遊戯室でリズムあそびを終り、子ども達が保育室に帰ってくる。女児三人ままごとあそび、女児二人あやとり、男児三人がつみ木、男児女児合わせて十三人、絵をかきはじめる。他の子どもたちは庭にでる。先生が保育室に帰って来る。戸棚から高さ三十センチ、たて、よこ、それぞれ十二センチくらいの箱を出してくる。「この中にはなにがいいかしら」といって、手にもってまわしている。Kが絵をかいて持ってくる。絵をみながらはなしをする。「そうだよ、そうだいことかんがえたわ」と、先生のそばにいたMにはなしをける。Mといっしょに大きいびっくり箱をつくることになり、先生

びっくりばことうばぐるま

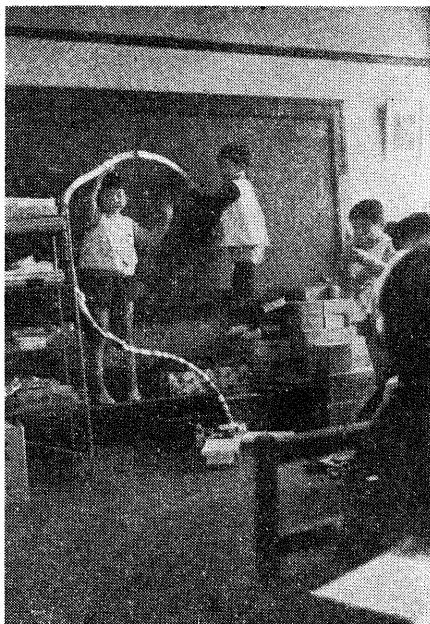


は、中に入れるとび出すものをさがしに行く。白いやわらかい紙とセロファン紙のビロビロしたのを持ってくる。先生は紙にビロビロをまるめてつつむ。H、K、Yが来る。

H、K、Y「ぼくもつくりたい」

先生「ひとつしかないから、みんなでおてつだいしてね」

先生「なにを入れることにする」



M 「てつじん」

先生 「じゃこれじゃだめ？」

と頭の形になったビロビロをみる。

M 「いいよ」

先生は、まるくなるようにしている。

M 「てつじんははながとんがっているよ」

先生 「じゃあはなをつくりましょう」

と紙をとりに行く。白いかみをひらき、鼻をつめて、またまるめ

る。

先生 「じゃこれにお顔をかいて下さい」とMにわたす。

「ままごとのことも「せんせいきてください、」

先生 「はいはい」

とままごとの子どもをみる。

先生 「では箱で、体をつくりましょう」とH、K、Yにいう。

先生 「みんなでかくのよ」

K 「この箱に色をぬろう」

H 「あ、そうだな」

Y 「ぼくはここだ、きみのところはくろ？」とマジックでぬりは

じみる。先生は子ども達がかくのをみて、

先生 「そういう色おもしろいわね」という。

先生 「ていねいによくぬってね、だれが買ってくださるかしら。買

ったひと、びっくりしちゃうわね」

Mはマジックで頭をかいている。大きいのでマジックでぬりきれないのをみて、先生はポスターカラーを出してきて、Mに「ポスターカラーの方がよさそうだね」とわたす。先生は「箱もポスターカラーでぬったらどうかしら」といいながら、箱にポスターカラーをのせてみる。色がのるのをたしかめて「ポスターカラーの方がよさそうよ」といっているのポスターカラーを持ってくる。「きれいな色でぬってね」といって、ままごとあそびに入る。K達は三人で話しながら色をぬりつづける。先生は時計をみて「あらおべんどう

だわ」という。先生庭に出て行く。外から子ども達が入ってくる。

A 「おべんとう、おわつてもしようよ」

H 「ぼくみかづきだったよ」

T 「ぼくの方がちよつとつよいのね」

A 「さんにもいっぺんにやつつけちゃうの」外にままごと道具を持って行った子どもたちは車に道具を入れて帰ってくる。

一月二十二日 水曜日

先生が本を作ることを思いつく。

先生のまわりで女兒がびっくり箱を作っている。先生は他の子どもの遊びにはあまり入らない。時折紙をとりに行ったりする時に、子どもたちが遊びやすいように机を移動させたり、遊び道具を片すみによせたりする。男児がギャングごっこをはじめると、男児の大部分はその中に入り、保育室の半分を占領する。子どもにうながされてテレビをつける。まだ前の番組が終っていない。本をつくる場面が出てくる。先生は「あら、本をつくっているのね。あれは大きい方の本だけれど、本を作っておみやげで売ってもいいわね。白雪姫やくまさんや、きりんさんの絵をかいてね」という。

一月二十四日 金曜日

誕生会のおやつを入れるかごをつくる。

明日は誕生会。先生は「あしたは誕生会だからかごを作りましょうね」といいながら、画用紙を持ってきて、絵をかき始める。女児が三人そばによつてくる。「先生つくる」「先生つくる」という。

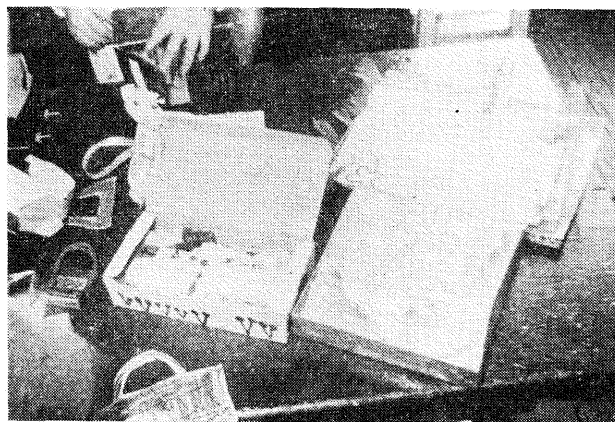
「先生はこんなもの考えたけれど、みんなもつとおもしろいもの考えてね」と先生のかいたのびをみせる。

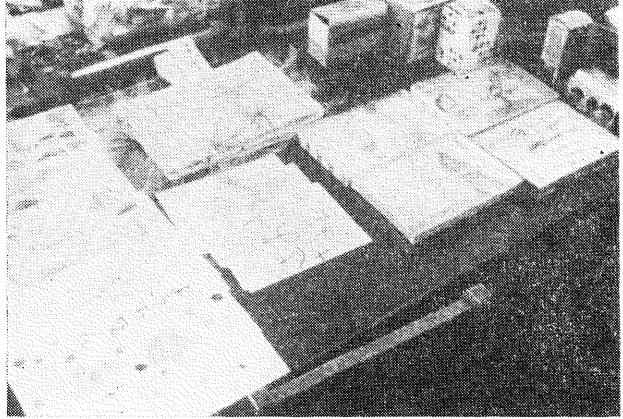
一月二十五日 土曜日

誕生会。Mがぶらんこを作り始める。

T 「ねえ、先生、小さい箱でぶらんこを作るからひもをちようだい」

ままごとセット





先生「あらおもしろいわねえ」

とTに紙ひもを適当な長さに切ってわたす。Tは箱に穴をあけてひもをつけている。Aが横でみている。

A「ねえ、先生ぶらんこを作ってるんだよ」

先生「そう、ゆれるようにするとおもしろいわね」

Sがぶらんこ作りに加わる。Tはマジックインクで色をぬる。AはTのするのを手伝ったりしながらみている。誕生会の知らせがくる。

T「またこんどするよ」

といつて皆といっしょに遊戯室に行く。

一月二十七日 月曜日

ぶらんこができる。ままごとセット、飛行機もできる。

Tは登園すると柵からぶらんこを持ってきて、ひもを手にとってゆらゆらとゆらしてみよう。

T「先生、できた」

とぶらんこを持ってくる。

先生「柱がいるわね」

といいながら、Tと空箱がたくさん入っている箱をさがすが、適当なのがみつからないので画用紙を用いることにする。

先生「こうすれば柱になるわね」

と丸めてみる。柱をたてる台はダンボールの箱ヲ切りとって与える。Tは長い時間をかけて、セロテープでとめて柱を一本たてる。

T「先生、一本たった」

とうれしそうにいいに来る。

先生「Tちゃん、ぶらんこをどうしてつけたらいいか考えてね」

先生は飛行機を作っているMにペロペラがつくれるくらいの紙を与える。Tがぶらんこの台を持ってくる。

T 「先生、あのね、いいこと考えた」

先生はTがブランコを持って説明するのを、きいて

先生「Tちゃんのもいい考えね。先生もいいこと考えたんだけど」とひごを持ってきて二本の柱にわたす。Tはぶらんこのひもをひごに結ぶ。

T 「ぶらんこができました」

と得意になって他の子どもたちにみせて歩く。先生のまわりでK達がぶらんこをつくりはじめる。

K 「先生、おままごとをつくる」

先生「じゃ、お皿や何かつくったら、いろいろ考えてね」

K は先生から紙をもらって、作りはじめる。

K 「先生、こんなにかわいいお皿ができました」

先生「あらほんと」

先生もお皿をつくってみる。Kはその後お皿のふた、おぼんをつくり一つずつできあがることに先生にみせにくる。先生はつくったものを箱に並べてみてセロファン紙をかぶせて輪こむでとめる。ままごとセットができ上る。

一月二十九日 水曜日

いろいろなおもちゃができる。

今日のおもちゃづくりはぶらんこと絵本がもり上ったが、Yはぶらんこを応用して潜水艦をつくる。Kはモーターボートをつくる。

Tは木の糸まきでこまをつくる。マッチ箱に色をみをはり、たんす

もできる。子どもたちがつくっている時に、先生は、ひとりひとりの子どもに助言を与えたり、子どもたちがつくった作品をその子どもにまわりにいる子どもによく工夫されている点をほしたり、あるいは高くさしあげて、みんなにみせたりする。

今日もままごとコーナーではねずみのおうちごっこがはじまる。今日で三日目である。先生は子どものいすにすわって、画用紙を半分にきっている。切りながら子どもたちのあそびをみている。Kが積木をがちゃがちゃとくずす。先生は「みんながあそんでいるときに、つみ木をこわしたらけがをするでしょう、けがしないようにしてね」と注意をする。ねずみのお家ごっこをしている子どもがねずみのお家のそうじをしている。手に手にバケツやマップや、ほうきを持っている。「せんせい」と手をあげる。

H 「せんせい」

先生「あら、おそうじしているの。きれいになるでしょうね」

Yは子どもたちが多勢ぶらんこをつくっているのをしばらくみていたが、箱を持ってきて、中ほどをくり抜き、マジックで色をぬる。それから人をかき、切り抜いて、箱のくり抜いたところにのせておいをつくる。

先生「あら、よくできたわね。いいのができたわ」と感心する。

Y 「これせんすいかん、これ船じゃなくてせんすいかんだよ」

先生は潜水艦を持ちあげて、

先生 「このせんすいかん、よくかんがえたわね。ここ、こういうふうにきってあるのよ」

と切ったところを皆にみせる。

先生はそれからねずみのお家の方に行き、「おそうじすんだの？きれいなったわね」という。まわりの小つみ木を片づける。

先生 「ごめんください」

とおじぎをして、くつをぬいで上る。

H 「せんせい。これ、にんじんです」

T 「これスープです」

と子どもたちは次々にごちそうをはこんでくる。そしてよろこんでとびはねている。

先生 「どうもごちそうさまでした。おなかがいっぱいになりました」とお礼をいって帰る。ぶらんこをつくっている子どもに紙をわたす。先生は子どものいすにこしかけて画用紙を切り二枚重ねて二つおりして穴をあけてリボンで結び、本をつくる。本をつくりながら、ぶらんこをつくっている子どもたちにはなしかけている。「ぶらんこにひとがのっているといいわね」とか「ブランコのはしらに模様があるといいわね」という。

E 「ごほんどれ、マジックでかいてもいい？」

先生 「ええいいですよ。何でかいてもいいですよ」

E 「クレパスは？」

先生 「クレパスもいいわね」

すでに子どもたちが本に絵をかいてえほんが二冊できている。

J 「せんせいほくみるよ」

先生 「はい。どうぞ」

J 「せんせい、ぼくえほんやさんになる」

先生 「はい。はい」

といててJをみてわらう。

R がえほんをかいて持ってくる。

先生 「あら、これはいいえほんだこと」

と一頁ずつみる。

帰りの時間になり、「きょう、できなかったかたは、あしたするといいわね」といって片づけはじめ。先生はTのまわりにいた子どもに、Tがつくったこまをみせて、「これおもしろいでしょう。Tちゃんがつくったこまよ。このひもをまくと、ほら、こうして、こまになるのよ」と糸をまく。

一月三十一日 金曜日

おもちゃをついたてにかざる。

遊戯室で子ども達が十人鬼ごっこをしている。保育室では、できあがったおもちゃが机の上に並べておいてある。先生が材料室から網のついたてと棚を持ってくる。

T 「これ、何にするの」

先生 「おもちゃをかざるのよ」

といいながら小つみ木を片づけ、ついたてがおけるようにする。先

生はおもちゃをついたてや棚にかざりはじめる。

K 「これなあに？」

と箱の四面に同じように人形が書いてある箱を持ってくる。

先生 「かがみですって。Eちゃんがつくったのよ」

先生はKといっしょにかざる。H、Mもきてかざりはじめる。保育室の向う側ではHが、いすや、箱つみ木を運んできて福引の場所をつくる。福引カードは二枚一組で同じ模様をかい、一枚は穴をあけて輪ごむをとおして机の上のおもちゃにつける。他の一枚は福引の箱に入れる。Mがざるに入れて机の上においてあるカードを二枚もってきて模様をかきはじめる。H達の福引屋が開店する。Yがお客さんになってくる。箱に手を入れて一枚カードを出す。カードを持って手に持っているカードと同じ模様のついているおもちゃをさがす。

Y 「あつ。たんす」

といって、福引屋にカードをかえす。

Y 「ほんとうはかえさなくてもいいのね。幼稚園だからかえすのね。」

H 「そうだよ。何回でもきていいですよ」Sも何回もひく。

H 「福引、もうじきおわるから何回もきてよ。」

N がひきおわると箱つみ木でふたをする。

H 「もうだめです。もうよるです」

先生 「あら、しめちゃったの。きょうはおしまい？」

次に福引屋が場所を移動して開店する。Kがひきにくる。

Y 「お金ちょうだい」

K 「ぼくひき出しに持っているもの」

といって紙の財布をもって来る。

Y 「はい、どうぞ」

Kは箱からカードをひく。

Yは先生から画用紙をもらってきて、「ふくびきや」とかい、まわりに絵をかくている。そして、みんなにみせに行きかけて、すぐにもどってきて、裏に「おやすみ」とかく。画用紙を持ってはるものをさがす。セロテープを持ってきて画用紙を黒板にはる。閉店すると黒板のところきて、「おやすみ」とはりかえる。先生のまわりではKたちが、首かざり、指輪、腕輪、リボンなどを作っている。先生は色のついた紙を五枚か六枚重ねて細長くきり、リボンでとじて絵本の準備をしている。しばらくして「やりたい方だけスキップしましょう」といって子どもたちと遊戯室に行く。